

1. 科目名 (単位 数)	英語学演習 I (統語論) (2 単位)	3. 科目番号	EDEN3304
2. 授業担当教員	志手 和行		
4. 授業形態	講義 演習 ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	本講座の目標は、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身につけることにある。そのため英語学の1つの分野であり文法構造の言語学的研究分野の統語論 (Syntax) に焦点を当てて学習する。まず、統語論の主流といえる生成文法の入門書を読むことにより、生成文法の基本的な考え方を学ぶ。生成文法理論は、とにかく専門用語が多く難しいという印象を与えるが、この授業では用語の解説は最小限に留め、英語という言語の構造をどのように捉えるべきかという基本的な精神を理解することを目指す。言語研究の大きな潮流の一つである理論の概要を知ることによって、英語学的知見を養い英語教員としての基礎教養を高める。		
8. 学習目標	1. 生成文法の基本的な考え方を学び、英語の文構造の理解を深め、基本的な文型からなる英文を分析し、図式化出来るようになる。 2. 新しい概念を積極的に学ぶ態度を養い、今後の英語教授への活用ができるようになる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	1. 言語構造の理解を深めるために樹形図作成の練習問題を学期中に毎回課す。 2. 言語教育への応用を実現していくために、長期休暇中の課題として統語論のレポート（生成文法の知識をどのように英語教育・学習に応用させるかについて1000～2000字以内で記述）を課す。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 阿部潤『問題を通して学ぶ生成文法』ひつじ書房。 【参考書】 中井悟・上田雅信（編）『生成文法を学ぶ人のために』世界思想社。 志手 and 和行『英文法を理解する』翔雲社、2024。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 生成文法の基本的な考え方を学び、英語の文構造の理解を深め、基本的な文型からなる英文を分析し、図式化できるようになったか。 2. 新しい概念を積極的に学ぶ態度を養い、今後の英語教授への活用ができるようになったか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1 授業中の態度・積極的参加度 総合点の 25% 2 課題（レポート、問題演習等） 総合点の 20% 3 復習テスト 総合点の 25% 4 期末テスト 総合点の 30% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。		
12. 受講生への メッセージ	「生成文法」という文法理論を初めて学ぶ者が恐らく全員であろう。よって、最初は戸惑うであろうが、学習者、そして教員としても生成文法理論を通じて「ことば」への理解が深まっていくと考えられる。是非その基本的概念を理解し、言語に対する多角的な視点を養ってもらいたい。また、生成文法を知ることによってこれまで学習してきた英文法の理解が深まるとも言える。そのためには授業内で両者を比較対照することを頻繁に行う。この新たな文法を理解していけるよう授業内外で遠慮なく質問をして疑問を解決しよう。		
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	この科目を受講するにあたっての留意点	事前学習	文法とは何かについて考えて授業に臨むこと。
		事後学習	講義の流れをつかみ、学習計画を立てる。
第 2 回	第 1 章 文法とは？	事前学習	テキスト第 1 章を読んで、文法について概要を理解する。
		事後学習	今までとは異なる文法観に触れることで、伝統文法を見直してみる。
第 3 回	第 2 章 統語構造とは？	事前学習	第 2 章（pp. 11-19）を読んで、統語構造について概要を理解する。
		事後学習	様々な英文を統語構造に基づき解釈し直してみる。
第 4 回	句構造規則を用いての樹形図作成演習 (1) 句構造規則と意味解釈規則	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。
第 5 回	句構造規則を用いての樹形図作成演習 (2) 助動詞と小節	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。
第 6 回	句構造規則を用いての樹形図作成演習 (3) もう 1 つの主部述部関係	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。
第 7 回	発音されない代名詞 PRO (1) 基本概念	事前学習	第 2 章（pp. 37-43）を読んで、代名詞 PRO についての概要を理解する。
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。
第 8 回	発音されない代名詞 PRO (2) 主動詞の役割	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。
		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。
	構造的同音異義	事前学習	句構造規則と伝統文法を比較してみる。

第 9 回		事後学習	句構造規則を用いて様々な英文を樹形図で表現する演習を行う。
第 1 0 回	統語構造のまとめ (1) 構造化	事前学習	統語構造化についての疑問点があれば質問を準備しておく。
		事後学習	構造を多角的に見る習慣を定着させる。
第 1 1 回	統語構造のまとめ (2) 日英比較	事前学習	文構造における日本語と英語の相違点について考える。
		事後学習	構造を多角的に見る習慣を定着させる。
第 1 2 回	第 3 章 変形規則とは？ (1) 深層構造と表層構造	事前学習	構造化できる英文とできない英文とは何が違うのか考えてみる。
		事後学習	変形規則を既習の樹形図に当てはめて考えてみる。
第 1 3 回	第 3 章 変形規則とは？ (2) 疑問文・否定文のしくみ	事前学習	第 3 章 (pp. 47-52) を読んで、変形規則についての概要を理解する。
		事後学習	変形規則を既習の樹形図に当てはめて考えてみる。
第 1 4 回	受動変形規則と主語繰り上げ規則	事前学習	第 3 章 (pp. 65-71) を読んで、受動変形規則と主語繰り上げ規則についての概要を理解する。
		事後学習	変形規則を既習の樹形図に当てはめて考えてみる。
第 1 5 回	統語論に関する総括	事前学習	既習事項について疑問点があれば質問を準備しておく。
		事後学習	既習事項を総復習して、試験に備える。
期末試験			